



女子教育の先駆者

ふくにし しげこ
福西志計子

(1847 ~ 1898 年)

女子教育者。備中松山藩士福西伊織の娘として松山城下伊賀町（現高梁市）に生まれる。

7歳の時父と死別、母の手によって育てられ、山田方谷の家塾・牛麓舎に入学、教えを受けた。1875年（明治8）には、女学校創立などで運命を共にする木村静とともに岡山裁縫伝習所に入る。翌'76年（明治9）に高梁小学付属裁縫所の教師となる。

志計子の人生を決めたのは、キリスト教との出会いであった。1879年（明治12）には中川横太郎や同志社神学生・金森通倫らが、翌'80年（明治13）には新島襄が高梁に伝導にやってきた。平等・献身と女子教育の必要性を説く教えに大きな感銘を受け、キリスト教婦人会を結成して活動を開始する。城下町ではキリスト教そのものはもとより、裁縫所教師としての行動に対しても、自由民権思想の普及活動などの強い非難の声があがった。裁縫所教師を自ら辞職し、柴原宗助、柳井重宣らの支援を受けて、'81年（明治14）12月に木村静とともに私立裁縫所を設立した。

1882年（明治15）に受洗し、アメリカの女子教育の創始者として知られるメリー・ライオンの伝記を読み感銘を受けたことが女学校設立の契機となる。'85年（明治18）には、裁縫所を順正女学校と改名し、当初からの主教科であった裁縫に文学科を加えた教育内容に変更・充実させた。神戸英和女学校など先進各校の女

教師を招いての授業が行われた。

1887年（明治20）ごろ洋服が流行するようになると、自ら上京して洋服仕立て、西洋洗濯、毛糸の編み物などを習得して帰り、直接生徒たちに教えた。順正女学校は、キリスト教的色彩を持ちながら、より先進的で充実した教育内容を持つ女学校へと成長していった。当初は少なかった生徒数も県内外から続々と集まり、1909年（明治42）頼久寺町から伊賀町へ移転する。その後、'21年（大正10）に県営に移管され、第二次大戦後の'49年（昭和24）県立高梁高等学校となり現在に至る。

一方では、留岡幸助や山室軍平らへも救いの手を差し伸べている。経営者・教師・クリスチャンとして、明治の時代を生きた福西であったが、病を得て51歳の生涯を閉じた。墓は高梁市頼久寺裏高台にあるキリスト教墓地に、町を見下ろして静かにたたずんでいる。また吉備国際大学短大部の庭には、創建碑が建てられている。

